

第1回調査の結果はどうだったの？

PIAACの分野別結果の各国比較

国名	読解力	数的思考力	ITを活用した問題解決能力	
	平均得点	平均得点	レベル2・3(中上位)の成人の割合	平均得点
OECD平均	273	269	34%	283
オーストラリア	280(4)	268(13)	38%(6)	289(3)
オーストリア	269(17)	275(10)	32%(13)	284(7)
カナダ	273(11)	265(14)	37%(7)	282(12)
チェコ	274(9)	276(9)	33%(12)	283(9)
デンマーク	271(14)	278(7)	39%(5)	283(8)
エストニア	276(7)	273(11)	28%(16)	278(16)
フィンランド	288(2)	282(2)	42%(2)	289(2)
フランス	262(21)	254(20)	m	m
ドイツ	270(15)	272(12)	36%(8)	283(11)
アイルランド	267(20)	256(19)	25%(18)	277(18)
イタリア	250(23)	247(22)	m	m
日本	296(1)	288(1)	35%(10)	294(1)
韓国	273(12)	263(16)	30%(15)	283(10)
オランダ	284(3)	280(4)	42%(3)	286(6)
ノルウェー	278(6)	278(6)	41%(4)	286(5)
ポーランド	267(19)	260(18)	19%(19)	275(19)
スロバキア	274(10)	276(8)	26%(17)	281(13)
スペイン	252(22)	246(23)	m	m
スウェーデン	279(5)	279(5)	44%(1)	288(4)
アメリカ	270(16)	253(21)	31%(14)	277(17)
ベルギー	275(8)	280(3)	35%(11)	281(14)
イギリス	272(13)	262(17)	35%(9)	280(15)
キプロス	269(18)	265(15)	m	m

(注) 平成25年(2013年)に公表されたデータに基づき作成。括弧内の数値は各国の国際的位置付け(順位)。ITを活用した問題解決能力の平均得点は、PIAACのデータを元にコンピュータ調査解答者を母数として国立教育政策研究所が算出。キプロス、フランス、イタリア、スペインは、ITを活用した問題解決能力分野に参加していない(m=データが得られない)。表中の数値が同じであっても順位が異なる場合があるのは、小数点以下の差異による。なお、本表にはロシアのデータは記載されていない。

OECD平均よりも統計的に有意に高い国
 OECD平均と統計的に有意差がない国
 OECD平均よりも統計的に有意に低い国

我が国は読解力、数的思考力の2分野において、平均得点で参加国の第1位でした。2分野ともに、16歳から65歳までの年齢層でOECD平均を上回っていて、30歳前後でピークを迎えた後、徐々に低下していく傾向にある他国に比べ、加齢にもかかわらず高い水準を維持しています。また、ITを活用した問題解決能力については、レベル2,3(中上位)の人たちが全体に占める割合がOECDの平均よりも高いという結果となりました。



Programme for the International Assessment of Adult Competencies

〈第2回調査〉

本調査 令和4年(2022年)～令和5年(2023年)



OECD国際成人力調査(PIAAC)の概要

「成人力」って何？

知識をどの程度持っているかではなく、課題を見つけて考える力や、知識・情報を活用して課題を解決する力など、実社会で生きていく上での総合的な力のことを「成人力」と位置付けています。

「成人力」の調査って、どんな内容なの？

日常生活での様々な場面で、文章や図などの形で提供された情報を理解し、課題の解決に活用する力を調べます。具体的には、「読解力」「数的思考力」、「状況の変化に応じた問題解決能力」の三つの分野につ

OECD国際成人力調査って何？

OECD国際成人力調査(PIAAC:ピアック)は、OECD(経済協力開発機構)が中心となって実施する国際比較調査の一つです。参加する各国の成人(この調査では16~65歳)が持っている「成人力」について調査し、その力と社会的・経済的成果との関係などを分析します。平成23年(2011年)に第1回調査を実施しました。それから約10年が経過した令和4年(2022年)の9月から令和5年(2023年)3月にかけて第2回調査を実施します。

〔調査方法〕

「背景調査」は、調査員の質問に回答する面接方式で行います。「読解力」、「数的思考力」、「状況の変化に応じた問題解決能力」の調査は、調査員が持参したタブレットに対象者御自身で解答を入力していただきます。操作は難しくありません。入力の仕方は事前に説明します。

調査内容の構成

読解力

文章や図表を理解し、評価し、活用する力

(例)

- ホテルにある電話のかけ方の説明を読んで、指定された相手に電話をかけるにはどのように操作したらよいかを答える
- 図書館の蔵書検索システムを使って、指定された条件に合う本を選ぶ



数的思考力

数的な情報や内容を用いて論理的に考える力

(例)

- 商品の成分表示を見て、許容摂取量を答える
- 作成中の伝票を見て、商品の売上金額を答える



状況の変化に応じた問題解決能力

条件や状況の変化によって生じる新たな問題を把握し、適切な解決に導く力

(例)

- 指定された条件を満たす商品を、価格や在庫の変化に応じて適切に選択する
- 複数の人のスケジュールを、当日の予定や会場の都合の変化に応じて適切に調整する



背景調査

対象者自身に関する質問

「成人力」に影響を及ぼす要因、「成人力」の差が個人に及ぼす影響などを調べるため、三つの分野の調査に先立って、学歴、職歴、収入、学習活動への参加状況などについて尋ねます。



調査の目的は？

- 1 「成人力」がどの程度あるのかを把握すること
- 2 「成人力」が社会的・経済的成果に及ぼす影響を検証すること
- 3 「成人力」を身に付ける上での教育訓練システムの成果を検証すること
- 4 「成人力」を高める政策手段の検討に役立てること

「成人力」について多くの国々が参加して国際的に比較調査する機会はPIAACだけです。したがって、この調査から得られるデータを他の国と比較したり、第1回の調査結果と比較したりすることで、「成人力」についての日本の現状を把握する貴重な資料になり、日本の教育訓練システムのどのような点を改善すべきなのかについての情報を得ることができます。

調査対象者はどんな人？

住民基本台帳から無作為に抽出された、日本国在住の16歳以上65歳以下の個人が対象です。
(未成年の対象者については保護者の同意を得た上で調査を実施します。)

調査はどのようにして行われるの？

- 1 対象者へ
依頼状郵送

対象者として選ばれた方には、調査への協力をお願いする文書をあらかじめ送ります。
- 2 調査員が訪問し、
日程調整

その後、調査員*が御自宅を訪問し、調査を実施する日時を調整します。調査は御自宅で実施するか、または、希望があれば公民館などお近くの施設で実施することもできます。
- 3 対象者が指定した
調査日に調査を実施

約束の調査実施日時に、調査員が調査対象者と1対1で調査を実施します。

*調査員とは

御自宅に訪問する「調査員」は、専門の訓練を受けた訪問調査のプロフェッショナルです。調査に関する知識はもとより、個人情報の管理等の研修を受けた調査員が訪問します。

調査は新型コロナウイルス感染症に十分注意して行います



訪問する調査員はあらかじめ検温を行い、マスク着用、ソーシャル・ディスタンスの確保などに十分注意して調査を行います。

プライバシーは厳重に守られます



調査により集められた個人情報は厳重に管理します。また、他の目的に使用することもありません。調査結果は、全て統計的に処理するため、個人が特定される形で公表することはありません。

調査はどのようなスケジュールで実施されるの？

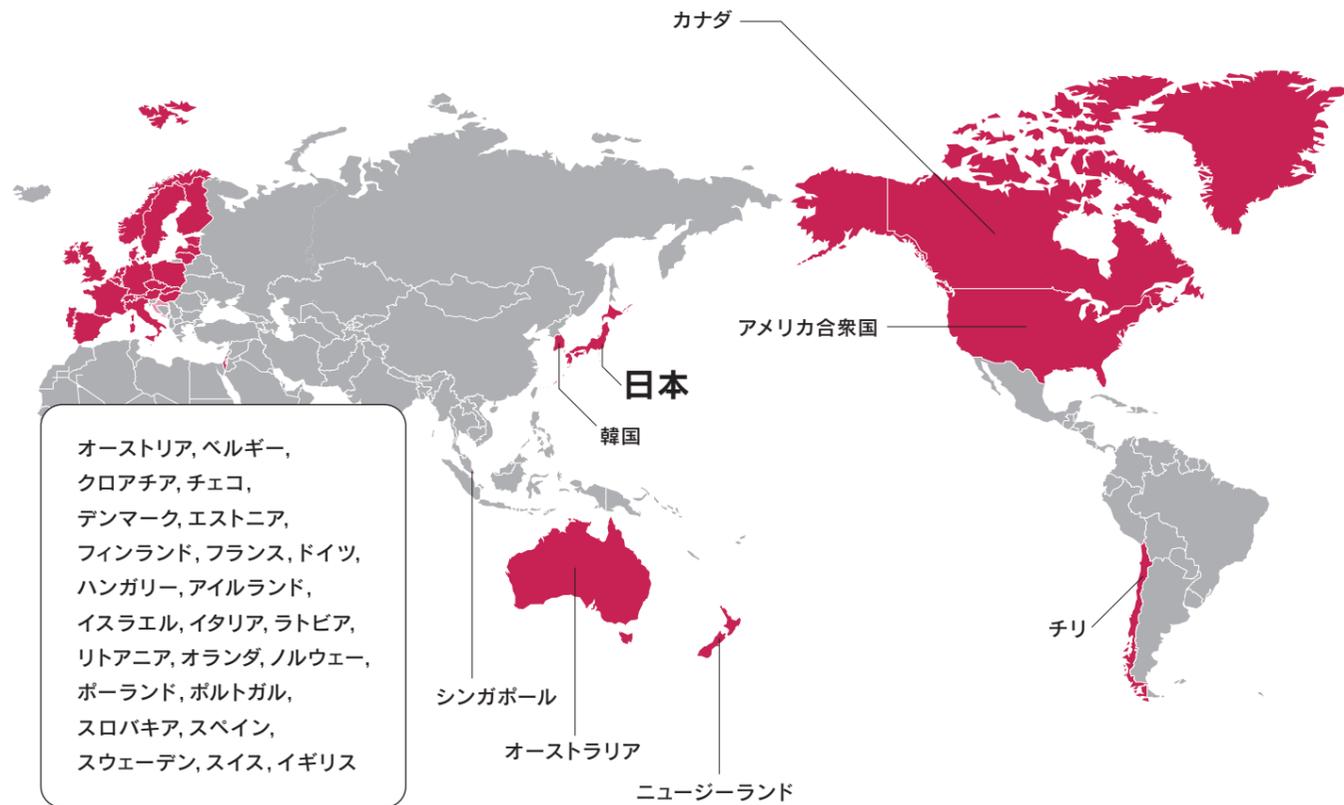


*本調査で使う調査内容の確認、実施上の問題点などを把握するために、本調査とほぼ同じ形で行うものです。



第2回調査はどの国で実施されるの？

第2回PIAAC参加国・地域



(うち、クロアチア、シンガポールはOECD非加盟国)
令和4年7月現在

「OECD」とは

経済、社会など幅広い分野について議論する国際機関です。
教育の分野では、1980年代後半から、各国の教育制度や政策を様々な側面から比較する調査を行っており、15歳の生徒を対象とした学習到達度調査(PISA)もOECDが実施している調査の一つです。
現在、日本のほか、アメリカ、イギリス、イタリア、オーストラリア、カナダ、韓国、スペイン、ドイツ、フランスなど、全部で38か国が加盟していて、その多くがPIAACに参加しています。

調査はどのような仕組みで実施されるの？

